



国際交流基金

<http://www.jpff.go.jp/>

PRESS RELEASE

December 14, 2006, No. 222

東京国際芸術祭2007プレ企画

ラビア・ムルエ（レバノン）来日講演会

演劇から映像、美術、音楽まで軽やかにジャンルを横断し、世界のアート界に旋風を巻き起こすレバノンの鬼才、ラビア・ムルエ。2007年3月に行われる東京国際芸術祭での新作・世界初演に先駆けて来日、新作に向けた抱負を語ります。内戦というトラウマがしみ込んだ国、宗教的な共同体によって定義される社会において、芸術に残された可能性とは何か？ 個人が果たすべき役割とは何か？ 2006年夏のイスラエル軍によるレバノン攻撃や相次ぐ暗殺事件によって内戦の再発が危惧されている現在のレバノン。その現実生きるアーティストが今、レバノンで表現を続けることの意味を鋭く問いかけます。

【東京国際芸術祭2007プレ企画 ラビア・ムルエ 講演会】

主催：NPO法人アートネットワーク・ジャパン

共催：国際交流基金（ジャパンファウンデーション）

日時：12月20日（水）19時～21時

会場：にしすがも創造舎 特設劇場（豊島区西巣鴨4-9-1 旧朝日中学校）

料金：1000円（税込・当日会場払い）

予約：電話 03-5961-5202 または

ホームページ URL <http://tif.anj.or.jp> よりお申込ください。

ラビア・ムルエ プロフィール

1967年レバノン・ベイルート生まれ。現在もベイルートを拠点に活動、世界の主要な芸術祭や劇場、美術館で精力的に作品を発表し、世界的な話題を呼んでいる。日本でも東京国際芸術祭の招きで2004年『ピオハラフィア』を上演、好評を博した。内戦を経てなお揺れ動くレバノン社会の傷と矛盾を執拗に表象し、解体するパフォーマンスや映像作品は、検閲すれすれの挑発と絶妙のユーモアに溢れ、メディアや共同体が作り出す虚構と現実の境界を激しく揺さぶる。

（ジャパンファウンデーションは、東京国際芸術祭2007参加作品のうち、イルホルム劇場（ウズベキスタン）および中東シリーズ〔ラビア・ムルエ（レバノン）ファミリア・プロダクション（チュニジア）〕を、NPO法人アートネットワークジャパンとの共催で実施します。）

お問合せ： 東京国際芸術祭（担当：相馬・横川・宮崎） tif@anj.or.jp

Tel 03-5961-5202 Fax 03-5961-5207